

地方都市における時間消費型中心市街地の再構築 -歩行者・自転車のアクティビティ-

正会員 菊池甫*1 佐藤誠治*2
姫野由香*3 小林祐司*4

地方都市 中心市街地再生 アクティビティ

1 研究の背景・目的

現在地方都市では、中心市街地の衰退、スプロール化が進んでいる。中心市街地の衰退は見過ごすことのできない問題となっており、その再構築は重要な課題となっている。

本研究では大分市を例に挙げ、中心市街地の現状を把握し、分析を行うことで、今後の活性化への課題を浮き彫りすることを目的としている。時間消費型の中心市街地を再構築するためには、様々な側面からのアプローチが考えられるが、本研究では、主に街路や商店街といった歩行者が中心的に活動する公共空間について研究を行う。

本研究では特に、道路空間、公園空間の管理・規制の現状、大分市における整備の現状の把握や、近年の道路空間利用の実態、利用者のアクティビティの実態と時間消費エリアの特定、さらに市街地に対する利用・意識の実態などを明らかにし、分析を行う。

2 大分市中心部の管理・整備の現状把握

本章では大分市の中心部(図1)を対象に、道路空間、公園空間の管理・規制の現状、整備の状況を整理し、道路空間利用に関する国土交通省からの通達や大分市における中

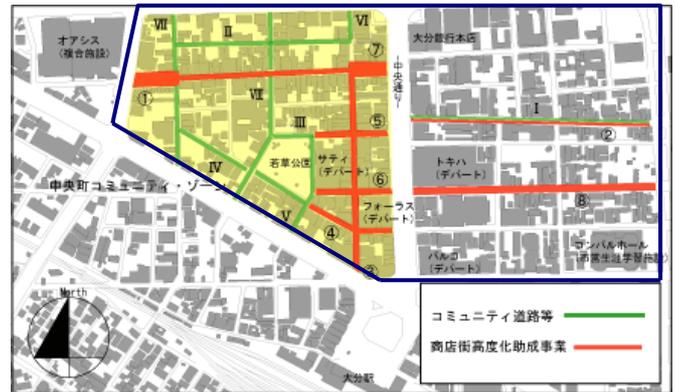


図1 大分市中心部、歩行空間整備の状況(平成13年度3月末)

央通りの路上イベントを通して、大分市における道路空間利用の実態を整理した。大分市では、中心部を主として整備が実施されており(歩行空間整備、電線地中化整備 63 項目中 33 項目は図1 地域枠内)、商店街、中央通りを中心に、道路環境が改善されている。しかし、道路空間整備に格差がみられ、整備が実施されていない街路空間も目立つ。中央通り、西側部分の整備が完了又は計画中の通りが多い



図2 対象敷地全体の活動の様子(プロット図)

ものの、東側では十分な整備が行われているとは言い難い(図1参照)。また、中央通りにおける路上イベント等の試みは、周辺店舗との折り合い、市民とのコンセンサス等多くの課題を残しており、問題解決に向けての対策が必要である。

3 利用者に対する行動調査

本章では、街路空間ごとに、歩行者アクティビティの実態と時間消費行為の分布を把握するため、大分市中心市街地を対象に活動調査を行った。

11の区間に対して、1区間あたり3回(朝方(8:00~9:15)、昼間(12:00~13:15)、夕方(17:00~18:15))それぞれ15分間の調査を行った(前半5分間で活動を抽出、後半の10分間で計測とした)。調査結果を集計し、集計データをグラフ化、またプロットされた起点を基に分布図を作成した(図2参照)。

集計された活動は、歩行者・流動系、歩行者・停滞系、自転車・流動系、自転車・停滞系の4つに分類した。

分布図から活動系の特徴は、交通量や店舗等の業種、選定地域の場所等の要素が複合的に影響していることがわかる。歩行者の流動系の活動は交通量の多い区間、対象地域の中央部に近づくほど、活動が盛んになっていることが円の大きさからわかる。自転車の流動系の活動は逆の傾向が出ており、交通量の多い区間や中央部より、交通量の少ないzone1, zone11の方が、活動が盛んであることがわかる。歩行者の停滞系の活動は、ベンチ等の設備や、ワゴンセール等のイベントが多い商店街等の区間(zone3, zone4, zone5)で盛んである。以上のように、類型化したそれぞれの活動は区間の性能により異なるため、区間の活動を活発にするためには、それぞれの区間や活動に対し個別に対策を立てる必要がある。本調査の成果だけでは、その対策を検討することは困難であるため、今後は周辺環境との関係を分析する必要がある。

4 利用者に対するアンケート調査

アンケートは、大分市中心部で、9月の後半17日~23日、10:00~19:00の期間に、面接調査法により実施した。アンケートは次の4項目で構成されている。収集サンプルは394票である。

調査項目は1、アンケート記入者について-2、中心市街地のアクセスについて-3、中心市街地の利用状況について-4、中央通りのトランジットモール実施についてであるが、ここでは紙面の都合上3、中心市街地の利用状況利用状況についての結果のみを示す。65%以上の来街者が、「買い物」を行っており、最も主要な行動であることがわかる。また滞在時間は、特に「5時間以上」の長時間滞在者が25%と

多いことがわかった。市街地については「賑やか」、「明るい」(5段階評価で平均3.68, 3.54)に対しての評価が高く、逆に「落ち着く」、「自然を感じる」(同2.82, 2.36)等の評価は低い(図3、紙面の都合上休日のみを示す)。この傾向はトランジットモール等のイベントを実施した場合も同様の結果が出るものと予想される。

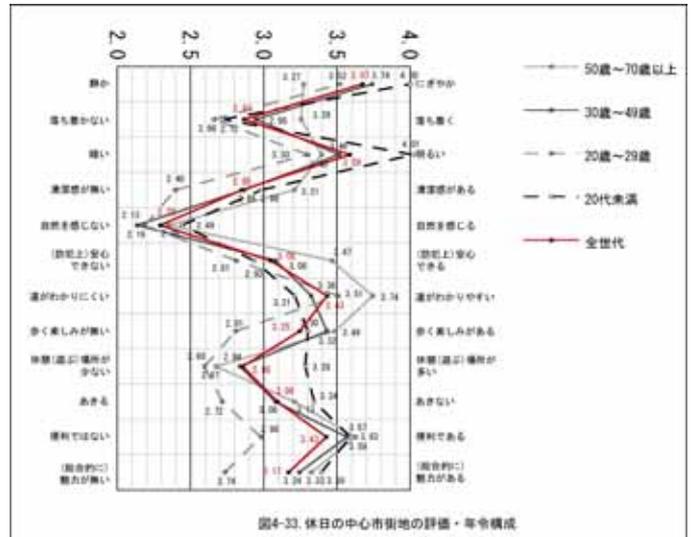


図3 休日の中心市街地に対する評価

5 まとめ

大分市の現状は、整備等の実態からみると、中央通り整備が完了又は計画中の通りが多いものの、東側では十分な整備が行われているとは言い難い。今後は東側の連続性に対する配慮が重要であるといえる。市民の意識においても、市街地に対して一定評価を得ているものの、同時に「落ち着かない」、「自然を感じない」等のマイナスイメージも持っており、その問題に即した対策が必要といえる。また市街地内でも、交通量・周辺の建物・イベント等により、行動は大きく変化するので、時間消費型都市の活性化のためには、よりその現状に即した整備やイベント等の手段を検討していかなければならない。

参考文献

- 第1回 大分市景観計画策定委員会
快適な歩行空間 ふないアクアパーク 若草公園
大分市自転車利用基本計画
大分市中心部に対する交通量調査報告書 大分市
- 地域の活性化に資する路上イベントに伴う道路占有の取り扱いについて
道を活用した地域活動の円滑化のためのガイドライン 国土交通省
- 大分合同新聞 2005年10月9日
- 小林茂雄 昼夜の遊歩道における店舗開口部の特徴と歩行者の注視行動との関係 日本建築学会計画系論文集 p.77~83, 2004, 1
- 森傑・奥俊信 自由散策行動にみられるアクションの特性 日本都市計画学会学術研究論文集 p.31~36, 2002年度第37回

*1 大分大学大学院工学研究科建設工学専攻博士前期過程
*2 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 教授・工博
*3 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助手・工修
*4 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 講師・工博

*1 Graduate Student, Master's Course, Graduate School of Eng., Oita Univ
*2 Prof, Dept of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., D Eng
*3 Research Associate, Dept of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., M Eng
*4 assistant professor, Dept of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., D Eng